



## 理念

1. 信頼される病院
2. 心温まる病院
3. 楽しく働ける病院

## 基本方針

- ・ 地域における医療福祉の向上につとめ、地域住民のいのちと健康を守ります。
- ・ 地域の中核病院として、地域の医療機関と連携・協調を図ります。
- ・ 二次医療を中心に担当します。
- ・ 医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指します。
- ・ 超高齢社会における治す医療と支える医療の両立を目指します。

## ～AST、ALT、γ-GTPが高い!?!～

# 健診で肝機能異常を指摘されたら

内科主任部長 兼 消化器センター長 谷口 英明

肝機能検査として代表的なものにAST、ALT、γ-GTPがあり、健診を受けるとこれらの肝機能検査の数値を含んだ結果が返ってきます。平成27年の厚生労働省の統計では肝機能異常は14.7%が認められ、脂質異常31.8%、血圧15.2%に次いで3番目に多い有所見率となっており、健診で指摘される異常の中でも頻度が高いものになっています。しかし、異常を指摘されても忙しくて精密検査を受けていない方も少なくないと思います。

## 生活習慣に起因する肝機能異常

最近、肝機能異常の原因として頻度が高いものに脂肪肝があります。お酒はあまり飲まないのに肝機能異常がみられる場合、脂肪肝が原因であることが多いです。脂肪肝は遺伝的なものもありますが、生活習慣（肥満、体重増加、運動不足）が強く関係していることも確かです。肝機能異常の原因として脂肪肝が考えられたら、生活習慣を見直す良いきっかけになると思います。

アルコール性肝障害も肝機能異常の原因として頻度が高く、これも一種の生活習慣病と言えるかもしれません。アルコール性肝障害である場合、肝機能検査の中でも特にγ-GTPが上昇する傾向が見られます。アルコール過量飲酒に加え、前段の肥満による脂肪肝がある場合は肝障害のリスクは高くなるでしょう。アルコール性肝障害が考えられたら、アルコールを一時やめる（減らす）ことで、肝機能検査が改善するか経過を見ていくことになります。節度ある適度な飲酒量を守ること、定期的に肝機能をフォローすることが大切です。

## 肝炎検査・治療のススメ

肝機能異常の原因の中でも古くから知られるものとして、B型肝炎、C型肝炎（以下、肝炎）があります。難治の印象がある肝炎ですが、この10年間で医療が飛躍的に進歩し、多くの患者さんの肝機能を安定させることができるようになりました。過去に肝炎を指摘されたことがありながら、定期検査を受けていない方がおられましたら、一度受診されることをお勧めします。また、肝機能異常を指摘された方の中で、これまで一度も肝炎の検査を受けた事が無い方は、一度、肝炎ウイルス検査を受けてみられてはいかがでしょうか。

## 異常を指摘されたら精密検査を

健診結果等でAST、ALT、γ-GTP等の数値が高く、肝機能異常を指摘された場合は医療機関で精密検査を受けてみられることをお勧めします。肝機能異常を指摘されて医療機関で精密検査を行う際には、腹部超音波（エコー）検査が行われることがあり、肝臓だけでなく胆のう、膵臓、腎臓も観察でき、大変有用な検査です。肝機能異常だけでなく、異常を指摘されたら放置することなく精密検査を受けられることをお勧めします。

### 当院人間ドック肝機能検査の基準値

AST 0～30 UI/L ALT 0～30 UI/L γ-GTP 0～50 UI/L

※基準値は機関によって異なることがあります。

## コロナ禍でも

# ママを応援 しています！

3階東病棟 助産師 國本 万智子<sup>ま ち こ</sup>

私たちに  
まかせて！



## コロナ禍での現状

新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた昨年から、感染防止対策として当院でも様々な対策を行いました。通院される患者さまご家族にも手指消毒、体温測定、マスクの着用をお願いしたり、入院患者さんをお守りするための面会禁止など・・・。

産婦人科外来や病棟でも妊婦さんやご家族に同様の協力をお願いしており、お見舞いや同伴分娩を中止しています。また、「マタニティクラス」、「マタニティビクス」や「出産準備クラス」も中止（2021年3月現在）していますので、妊婦さん同士で集える機会もない状況となっています。

以前は、妊婦健診に妊婦さんのパートナーをはじめとするご家族にもおいでいただき、おなかの赤ちゃんが成長している様子をほほえましく見ておられる姿が通常でした。しかし、これも少なくなっている状況です。妊婦さんやご家族にこの状況を説明すると、「そうですよね。コロナが流行ってるしやむを得ないですよね。」とご理解いただくお言葉をいただいています。

## コロナ禍だからこそ

### しっかりママを支えます♡

各クラスが中止になっているため、妊婦さんやご家族同士の交流ができなくなってしまいました。また、面会禁止に伴いお産の時にご家族の付き添い分娩ができないことは、私たちスタッフにとっても本当に心苦しいことです。そのため、私たちは妊娠週数や妊婦さんの様子に合わせ、個別に相談の時間を十分にとって、お話を伺うことにしています。

例えば、妊娠週数が進むにつれて前回の妊婦健診の時とは違う心配事が起きているかもしれませんし、また、外出自粛による運動不足で体重が増加してしまう場合もあります。そんな時はどうしたら健康的な妊娠生活を送ることができるかを話し合っています。中にはお話を伺っているだけでも表情が明るくなる妊婦さんもいらっしゃいます。以前からのことではありますが、様々な情報に翻弄されて困惑されている様子が見受けられます。特に初めて妊娠された方にとっては、妊娠、出産、育児は未知の世界で分からないことが山積みです。不安が少しでも軽くなるように、その人に合った情報提供ができるように心がけています。また、妊婦指導のお部屋には、私たちの相棒である赤ちゃん人形「タロウちゃん」がいて、抱っこの練習やおむつ交換、授乳の姿勢の練習をしています。

本来ならお産の時にはご家族も産婦さんと共に過ごし、新しい命の誕生をその場で祝福してもらいたいのですが、残念ながら今はできません。産婦さんにとっては一人で挑まなければならないお産に大きな不安を抱えておられる事でしょう。そんな中でも出産に挑んだ後に「しんどかったけど赤ちゃん



妊婦健診時の相談の様子  
(妊婦さんには許可を得て撮影しています)



を産んでよかった!」「私、がんばった!」「元気な赤ちゃんの泣き声が聞けてしあわせ!」と思えるような満足なお産を体験していただけるよう、私たち助産師をはじめ、スタッフ全員で産婦さんをサポートしています。無事に出産された直後には、産婦さんがご家族に携帯電話のビデオ通話で出産の報告をされることが多くなりました。その時には、助産師からも「ママはよくがんばりましたよー!」とご家族にお伝えしています。



## コロナ禍での産後ケア

当院では、鳥取市などの近隣自治体からの委託事業として母子ショートステイを行っています。生後4か月までの赤ちゃん和妈妈を対象に最長7日間当院に宿泊していただき、育児全般の相談、赤ちゃんのお世話の練習などを行っています。この事業は、「妊娠、出産、子育てを家族のみに任せるのではなく、生活している地域で様々な関係機関や人が支援し、孤立を防ぐ」ことを目的に厚生労働省が打ち出した産後ケア事業の一つです。以前は、当院で出産した方のみが対象でしたが、2020年4月から当院以外で出産された方も対象となりました。その中にはコロナ禍の影響で里帰り分娩ができず、他県からのご家族も移動しにくいとため、育児のサポー

トを求めて利用される方もいらっしゃいます。

利用後に「育児に迷うことがあったけど、『それで大丈夫ですよ』って言ってもらえて安心しました」という言葉からも、赤ちゃんに向き合うママ達のサポートが必要だと強く感じています。

## さいごに



以前のように赤ちゃんの誕生をご家族の皆さんで迎えていただける日が一日でも早く来ることを願っています。そして、今までと同じように私たちにできることを精一杯行って、赤ちゃんを迎える前から、そして出産後も育児に関する相談など皆さまに寄り添いながらサポートさせていただきます。